

1. 調査の目的及び内容

環境省では、放射性降下物等による環境への影響を把握するために、全国に設置された国設酸性雨測定所のうち遠隔地を含めた12ヶ所に、空間 γ 線測定装置及び α 線・ β 線ダストモニタを設置し、空間線量率並びに大気浮遊じん中の全 α ・全 β 放射能濃度を自動収集するとともに、オンラインで自治体を經由し、環境省及び財団法人日本分析センター（以下「分析センター」という。）へ自動送信・保存する環境放射性物質監視測定システムを運用している。また、酸性雨測定所周辺で採取した環境試料の核種分析を行っている。あわせて利尻測定局の維持管理を行っている。

本調査は、12ヶ所の測定所に設置されている α ・ β 線ダストモニタにより得られた大気浮遊じん試料（ろ紙）について放射能分析を行うとともに、測定所における大気降下物、測定所周辺における土壌及び陸水試料を採取し、放射能分析を行ったものである。

2. 調査・分析内容及び調査・分析期間

2.1 調査・分析内容

各測定所において、定期的に大気浮遊じん、大気降下物、土壌、陸水を採取し、 ^{90}Sr 及び ^{137}Cs の放射化学分析並びにゲルマニウム半導体検出器による γ 線スペクトロメトリーを行った。

試料名	測定局	測定頻度
大気浮遊じん	全局	3ヶ月に1回
大気降下物	4局（利尻、佐渡関岬、隠岐、五島）	3ヶ月に1回
土壌	4局（筑波、佐渡関岬、隠岐、辺戸岬）	年に1回
陸水	4局（筑波、佐渡関岬、隠岐、辺戸岬）	年に1回